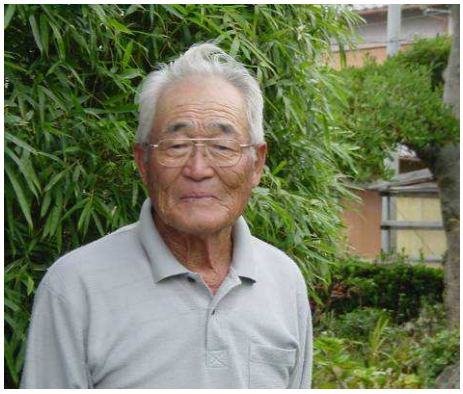
昭和の南海地震体験談



氏　　名：山根　稔（やまね　みのる）
生年月日：昭和 4 年 2 月 22 日
地震を体験した場所：田辺市
当時の家族状況：祖母、父、母、弟二人、妹

1）地震発生時の状況

当時 18 歳、隠居屋の一階で寝ていた。

ふと、家が揺れているので「今日は風が強いなぁ」と思い起きて、地震と気づき、慌てて、掃きだしの窓を開けて、出ようとして、自分が慌てていることに気づいた。

家族 7 人全員、家の門に出て無事。

「おそらく津波来るだろう」と、飼っている子牛を連れて行く者、弟の手を引いて行く者、銘々が、同じ裏山に避難。当時、家の周りは 10 軒程、全員同じ山に避難して無事。

私は、牛を難儀して山に登らせ、括って、蠟燭忘れたので、家に降りていく。津波の迫る音で慌てて逃げ登った。

2）津波襲来時の状況

私は逃げ登る時、近所の若い男の人が、米を 2 俵、山に運び上げ、再び下に降りて、又、米を担ぎかけたが、津波の迫る音で、米を放って、足の不自由な父親を背負って、山に逃げる姿を目撃した。

3）家族の行動･被害

家族全員、山に避難して無事。

4）集落･周囲の被害

集落の殆どが、床上 1m浸水。

今は湾を埋め立てたので小さくなっているが、当時は大きな浜で、集落では、87 歳のお婆さん死亡（当時寝たきりで、子供が一緒に逃げることを言うと「この家で死ねたら本望」と逃げなかった、奥の部屋で死亡）、この人だけがこの地区では、唯一の被害者。

＜新庄公民館提供:中跡の浦の惨状＞

5）地震･津波後の生活

山からは、昼頃ぼちぼち降りて来た。

まだ山に居た頃、隣町の親類が心配して、握り飯を持って来てくれたことを覚えている。

戻ってみたら、家の中の、畳は浮き上がり、芋・米、流れ、泥水に浸かり、めちゃくちゃで、何から手を付けていいやら分からない状態だった。

親類が手伝いに来てくれて、近くの沼や井戸で洗った。

浸かった米を洗って、隠居屋の二階に干してみたが、すぐに青かびが生えて駄目になったが、その米は役場が同量交換してくれた。払い下げの軍服を、支給してくれて助かった。

仕事は農業で数年間、収穫量、もの凄く減った。

津波で、田畑にガラスやビンが割れて入っていた為、取り除いて、牛が、田畑に入れるところまでするのに、かなり時間が掛かった。田んぼに、塩が入ったので、数年、米も出来高悪く、減った。

6）次の災害への備え

村は、この地震津波後、防潮壁作った。

S41 年に湾を埋め立てして、湾自体が小さくなった。現在、津波対策で、避難道の再検討している。